

令和4年度「データサイエンティスト養成履修カリキュラム」
自己点検・評価

自己点検・評価の観点	評価	評価理由
プログラムの履修・修得状況	A	履修状況を分析し、受講者毎の講義演習進捗状況や課題への回答状況を各科目レベルで把握し、改善に向けた取り組みを行った。
学修成果	S	科目レベルで授業評価アンケート等の項目を分析することによって、授業内容に対する学生の理解度を把握し、本プログラムの評価・改善に活用した。 特に、本カリキュラムの履修者を中心としたチームで日本計算機統計学会が主催するデータ解析コンペティションに出場し優秀賞を獲得したことは特筆に値する。参加した学生からは、本カリキュラムで学修した内容がコンペでデータ分析や考察を行う上で有用であったとのコメントが得られた。
学生アンケート等を通じた学生の理解度	A	受講者全員に対して授業アンケートを実施しており、個々の学生の理解度を分析している。理解度の分析に基づき、次年度の授業内容や科目を柔軟に見直し、データサイエンスへの関心を促す内容やプログラミング技能の修得に特化した内容を強化するなど、理解度に応じた改善に努めている。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	S	授業評価アンケート自由記述欄から、受講生がデータサイエンスの知識と習得に高い関心を示していることを確認しており、大学広報誌で受講生による座談会の特集を掲載し、公式サイトはもちろん、全学生保護者、関係機関へ郵送し講義受講の推奨に活用した。また、案内パンフレットを作成し、令和56年度学部入学生全員に配布を行い、認知度向上及び受講推進に努めた。加えて、令和5年3月に開催した「数理・データサイエンス・AI教育普及展開シンポジウム」においては、本カリキュラムの履修学生が座談会に登壇し、自身の体験等を交えてカリキュラムの魅力に参加した学生らに伝えた令和6年3月から5月までの期間で、カリキュラムの魅力等を紹介する企画展を附属図書館で実施した。こういった学生参加型の取り組みを実施したことは特筆に値する。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	A	本学における数理データサイエンス教育に関する基本方針に基づき、計画的に各学士プログラムにおける数理データサイエンス教育科目の体系化を目指し、各プログラムでの数理的思考力とデータ分析・活用能力を持つ人材の育成に向けた大学教育システムの構築を進めるなど、全学的な履修者数、履修率向上に向けた取り組みを推進した。
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	A	令和2年度に開始し、応用基礎レベル認定を含むため修了要件のハードルが高めではあるが、令和4年度末時点で、4名のカリキュラム修了者を輩出した。修了認定証は卒業予定者に限らず要件を満たした学生への交付が可能な仕組みとなっているところ、令和4年度には初めて卒業予定者でない学生(3年次)に対する修了認定証の交付を行った。3年次の時点で申請した理由として就職活動への活用を挙げていたことから、今後の広がり期待される。今後、就職先等への調査を通じて、修了者の活躍状況、企業からの評価を行うこととしている。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	A	沖縄県総合事務局及び沖縄地域DX推進コミュニティ、さらに沖縄県の関連部署及び県内外企業との意見交換を行い、産業課題ニーズ及び沖縄県内における人材育成ニーズの把握に努め、今後のカリキュラムに活用することとしている。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	A	「データサイエンス概論」において、社会経済、生物・生態、製造、在庫管理など様々な分野における最先端のデータサイエンスに関する研究を講師の先生に紹介してもらい、背景(ドメイン)知識、データの取得から下処理・分析・モデリングの方法、そして実社会への応用などを学ぶことによってデータサイエンスの知識を深める講義を行った。なお、同講義内容をオンデマンドコンテンツとして新たに作成し、今後も様々な分野における数理データサイエンス教育の活用を行うこととしている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	A	授業評価アンケートや企業調査の結果を踏まえて、内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とできるよう、数理・データサイエンス・AI教育推進室会議や学部教務委員会等で内容・実施方法の検討を行っている。また、データサイエンスの活用事例を豊富に紹介する導入部分の充実や、受講者のログを解析し、学生の分かりにくい点を把握し、教育方法の改善に活かす取組を進めている。

評価項目

S: 審査項目の観点を上回る成果を達成した。

A: 審査項目の観点通りの成果を達成した。

B: 審査項目の観点通りの成果を達成できなかったが、達成に向けての対応策が立案され、対応に着手している。

C: 審査項目の観点通りの成果を達成できなかった。さらに、達成に向けての対応策が立案されていない。